

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和４年度実施計画	令和４年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和５年度実施計画
基本施策１　情報提供及び普及啓発										
１－１．自殺や自殺対策に関する情報提供	自殺対策に関する情報を発信します	39	こどもみらい部	こども相談課		相談窓口情報一覧や自殺対策普及啓発イベント情報の配架、案内を行う。	こども相談課窓口等で各種情報の配架を行い、周知を図った。	○	窓口配架等により周知を図ることができた。	継続
		39	こどもみらい部	青少年課		青少年課、青少年会館窓口でリーフレットの配架	青少年課、青少年会館窓口でリーフレットの配架済	○		青少年課、青少年会館窓口でリーフレットの配架
		39	教育文化財部	教育センター		保護者向け相談窓口情報の作成、配付	保護者向け相談窓口情報を作成、配付した。	○	保護者向け相談窓口情報を作成、配付し、情報共有ができたため。	継続
		39	教育文化財部	教育指導課		担当者会等での教職員への情報提供を行います。	担当者会等での教職員への情報提供を行った。	○	予定通り事業を行うことができた。	担当者会等での教職員への情報提供を行います。
		39	消防本部	警防救急課		ポスター等があれば掲出する。	窓口にリーフレットを配架した	△	ポスター掲示は、掲出スペースの確保	ポスター等があれば掲出する。
		39	市民防災部	商工課		労働相談、働く人のメンタルヘルス相談、メール労働相談の情報提供	広報やSNS、チラシ等にて周知した	○		継続
		39	市民防災部	地域のつながり課		自治会・町内会等への情報発信	自殺対策に関する情報発信はなかったが、関係課との体制づくりに取り組んだ。	△	情報発信がなかった。	継続
		39	健康福祉部	高齢者いきいき課		必要に応じて窓口等に案内を配架する	相談窓口情報の配架を行い、周知を図った。	○	窓口配架等により周知を図ることができた。	必要に応じて窓口等に案内を配架する。
		39	健康福祉部	福祉総務課		福祉総務課窓口におけるリーフレットの配架	関連リーフレットの配架を行った	○		福祉総務課窓口におけるリーフレットの配架を行うとともに、重層的支援体制整備事業の取り組みの中で関係機関への情報発信を行う
		39	健康福祉部	障害福祉課		随時協力を行う	継続して行った。	○		継続
		39	総務部	納税課		主管課事業に随時協力を行います。（窓口でのリーフレット配架）	窓口にリーフレットを配架した。	○	主管課事業に協力した。	主管課事業に随時協力を行います。（窓口でのリーフレット配架）
		39	共生共創部	地域共生課		主管課等と連携した相談対応及び自殺対策に係る相談者等への情報提供を行う。	・市民健康課と連携した相談対応及び自殺対策に係る相談者等への情報提供を行った。	○	市民健康課と連携し、相談者の早期対応を行った。	主管課等と連携した相談対応及び自殺対策に係る相談者等への情報提供を行う。
		39	健康福祉部	生活福祉課		随時協力を行う	生活困窮者世帯向けに実施した食料配布会にて各相談窓口一覧を掲載したチラシを配布した。	○	全12回実施した食料配布会で、のべ約1,000世帯にチラシを配布した。	継続
		39	健康福祉部	市民健康課		「いきるを支える鎌倉・逗子・葉山実行委員会」による講演会を10月に予定	いきるを支える鎌倉・逗子・葉山実行委員会において、自殺対策講演会を令和４年10月にハイブリッド開催。会場30名・オンライン13名	○	管内の市町、保健福祉事務所、社協と連携して取り組むことができた。	継続
	様々な相談窓口に関する情報を分かりやすく提供します	39	こどもみらい部	こども相談課		相談（電話・面談）事業において助言や情報提供を行う。	各種情報を相談者へ提供するとともに助言等を行った。	○	計画通り助言、情報提供ができた。	継続
		39	健康福祉部	高齢者いきいき課		必要に応じて窓口等に案内を配架する	相談窓口情報の配架を行い、周知を図った。	○	窓口配架等により周知を図ることができた。	必要に応じて窓口等に案内を配架する。
		39	健康福祉部	障害福祉課		随時協力を行う	継続して行った。	○		継続
		39	市民防災部	商工課		労働相談、働く人のメンタルヘルス相談、メール労働相談の情報提供	広報やSNS、チラシ等にて周知した	○		継続
		39	健康福祉部	生活福祉課		随時協力を行う	生活困窮者世帯向けに実施した食料配布会にて各相談窓口一覧を掲載したチラシを配布した。	○	全12回実施した食料配布会で、のべ約1,000世帯にチラシを配布した。	継続
		39	総務部	納税課		主管課事業に随時協力を行います。（窓口でのリーフレット配架）	窓口にリーフレットを配架した。	○	主管課事業に協力した。	主管課事業に随時協力を行います。（窓口でのリーフレット配架）

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
1 - 1. 自殺や自殺対策に関する情報提供	様々な相談窓口に関する情報を分かりやすく提供します	39	健康福祉部	市民健康課		「かまくらサポートリスト」を市内スーパー等での配布。ホームページへの掲載を工夫していく。	①かまくらサポートリストを市内スーパー（4箇所）郵便局に配架。ダウンロード用のちらしを作成。 ②ホームページからスムーズに相談先につながるよう改善中。わかりやすく伝えるための画像素材の作成を委託し、完成した。	△	①「かまくらサポートリスト」またはちらしが必要な人の手に届くよう、対象や場所など引き続き配架方法を検討する。 ②現在画像素材を使用し、ホームページを改善中で、まもなく完成予定である。	継続
		39	健康福祉部	市民健康課		小中学校における「いのちの教室」実施時やゲートキーパー養成講座において「かまくらっ子おもりカード」等を継続配布。	「いのちの教室」市内小学校 5校（PTA対象を含む）478人、市内中学校9校（フリースクール1カ所含む）1,162人、市内私立高校1校180人で実施。延参加者数1,820人に配布ができた。	○	昨年に続き、継続して依頼をもらっている学校が増えてきている。	継続
		39	健康福祉部	市民健康課		ワーキンググループを開催し、各課業務での効果的な利用について協議していく。	事例検討会「希死念慮のあるケースへの支援について」 令和4年10月6日（木）13：30ワーキンググループ構成員14名 県職員（医師2名・相談員1名）	○	事例検討会を通して関係各課との連携が図ることができた。	
		39	共生共創部	地域共生課		かまくらサポートリスト等を相談者に配布し、くらしと福祉の相談窓口及びポケット情報コーナーへ配架する。 女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供を行う。	・かまくらサポートリスト等を相談者に配布し、くらしと福祉の相談窓口及びポケット情報コーナーへ配架した。 ・女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供を行った。	○	かまくらサポートリストを市民に広く紹介し、相談者をつないだ。 女性相談においても、くらしと福祉の相談担当との連携や鎌倉保健福祉事務所等への案内などにより、早期対応を図った。	かまくらサポートリスト等を相談者に配布し、くらしと福祉の相談窓口及びポケット情報コーナーへ配架する。 女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供を行う。
	ひきこもり支援マップの作成・配布	39	健康福祉部	生活福祉課		（青少年課から移行）	R3年度末に作成した「鎌倉市ひきこもり支援ガイド」を配布した。	○	相談や講演会等で市民等に配布した。	継続
	こころの健康づくりや自殺対策に関する資料、書籍を提供するとともに、講演会、展示ブース等により、自殺対策に関する情報を発信します	39	健康福祉部	市民健康課		自殺対策週間・月間に併せ、各課との連携をはかって周知していく。	9月の自殺予防週間及び3月の自殺対策強化月間にあわせ、市役所本庁舎ロビーにて、パネル展示及びリーフレット等の配架を実施。 庁内各課と連携を図り、各課の事業を紹介。9月は市内図書館にも協力を依頼し、同様に実施した。	○	庁内各課と連携し、普及啓発を実施することができた。	継続
	医療機関や、民間機関と協力した情報提供や普及啓発を行います	39	健康福祉部	市民健康課		相談業務に携わる人向けの専門的な視点でのゲートキーパー講座を実施予定。	演題：相談者の「いきる」を支えるために～司法書士の立場からみる自殺対策～ 日時：2月10日（金）19：00～ 講師：植松 育子氏（うえまつ司法書士事務所） 対象：生活に関する相談を受ける者、行政・医療・福祉関係者等 参加者：18名（オンライン14名、来庁4名）	○	相談者を中心とした伴走型での支援が求められているが、それには関係者同士がつながりを持つことが重要である。ゲートキーパー養成講座を通して関係者がつながりをもてるよう、今後も継続して実施していきたい。	演題：「支援を必要とする親への寄り添い方のコツ」（仮） 日時：7月6日（木）15：30～17：00 講師：平島奈津子氏（国際医療福祉大学三田病院精神科医） 対象：保育士、子育て支援センター相談員、学童支援員、主任児童委員、教育・子育て支援関係者など
	国や県から配信される自殺対策に関する情報を、地域等に発信し、共有を図ります	39	健康福祉部	市民健康課		ホームページデザインを刷新	ホームページからスムーズに相談先につながるよう改善中。わかりやすく伝えるための画像素材の作成を委託し、完成した。	△	現在画像素材を使用し、ホームページを改善中で、まもなく完成予定である。	継続

〔資料1〕 令和4・5年度 鎌倉市自殺対策計画進捗管理シート

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
基本施策2 自殺対策を支える人材の育成										
2-1. 市職員のゲートキーパーの育成	ゲートキーパー講座を受講し、自殺対策の視点をもった市民対応と、適切な相談窓口の紹介を心がけます	42	健康福祉部	市民健康課		継続 内容や方法については職員課と協議	青少年課、教育総務課からの依頼で関係機関向けのゲートキーパー講座	△	事例検討会を通して関係各課との連携が図ることができた。	職員課と連携し、職員・ワーキンググループ構成員のゲートキーパー講座開催を検討する。
	市職員の意識の醸成を図るため、段階的に職員向けゲートキーパー講座を実施します	42	健康福祉部	市民健康課		職員向け研修会は継続 継続 内容や方法については職員課と協議	ワーキンググループ構成員と事例検討会「希死念慮のあるケースへの支援について」を実施。職員を対象としたゲートキーパー講座は未実施。	△		
2-2. 地域におけるゲートキーパーの育成	市民が、自殺対策の理解を深めるための基礎講座を実施します	42	健康福祉部	市民健康課	再	①(再)「いきるを支える鎌倉・逗子・葉山実行委員会」による講演会を10月に予定	①いきるを支える鎌倉・逗子・葉山実行委員会において、自殺対策講演会を令和4年10月にハイブリッド開催。 参加者：会場30名・オンライン13名 ②ゲートキーパー講座（市民向け） 演題：「誰も自殺に追い込まれることのない”生き心地のよい鎌倉市”をめざして」 日時：令和5年1月28日（土） 講師：小牧奈津子氏（NPO法人ライフリンク） 藤井美智子氏（NPO法人全国自死遺族総合支援センター） 参加者：33名	○	①参加者アンケートから、ゲートキーパーとしての対応だけでなく、自分自身に目を向けることの大切さも伝えることができたようだった。 ②ちらしに「身近で大切な誰かを亡くされた方」と表現したことで不特定多数の者が参加。誰かを亡くした悲しみという共通点から自死遺族の話を身近に感じ、ゲートキーパーとしての役割を考えるきっかけにつながった。アンケートでは自殺への偏見が減少する傾向が見えた。今後、県と協力し、広域での開催を検討していきたい。	ゲートキーパー養成講座（市民向け） 内容：「自死遺族の体験談と基礎講座」 日時：令和6年1月開催予定 講師：自死遺族、精神科医等
		42	健康福祉部	高齢者いきいき課		所管課と協力し、関係団体や事業者等へのゲートキーパー講座を周知して、地域で見守る人材を育成する。	健康づくり講座等の機会を通じてゲートキーパーの必要性やその役割等の周知啓発を行った。	△	新型コロナウイルス感染症の影響により人材養成講座の開催までには至らなかった。	所管課と協力し、関係団体や事業者等へのゲートキーパー講座を周知して、地域で見守る人材を育成する。
		42	健康福祉部	障害福祉課		随時協力を行う	継続して行った。	○		継続
	各課が協力し、関連団体や事業者等へのゲートキーパー講座を周知して、地域で見守る人材を育成します	42	市民防災部	商工課		働く人のメンタルヘルス相談を事業主にも勧める	広報やSNS、チラシ等にて周知した	○		継続
		42	健康福祉部	生活福祉課		民生委員児童委員に対しゲートキーパー講座の周知を行う	ゲートキーパー講座の周知は行わなかったが、鎌倉市自殺対策計画推進委員会に民生委員児童委員が委員として出席し、会議内容を民生委員児童員協議会で共有した。	○		継続
		42	健康福祉部	市民健康課	再	地区社協での実施	①教育総務課より依頼 日程：7月27日（水） 対象：学校技能員、給食調理員 参加者：93名 ②青少年課より依頼 日程：11月11日（オンライン） 11月21日（オンライン+対面） 対象：学童支援員。コーディネーター 参加者：89名+50名	○	ゲートキーパー養成講座の基礎的な知識を伝える場として、また現場の意見を聴く場として有効であった。	・ワーキングメンバーを中心に各課でのゲートキーパー講座の開催を検討。 ・庁内各課へ7月6日ゲートキーパー養成講座（専門職向け）参加勧奨。
		42	こどもみらい部	青少年課		青少年団体等への周知・啓発	青少年団体等への周知・啓発	○		青少年団体等への周知・啓発
		42	健康福祉部	市民健康課		実施方法等の検討を継続	①地区社会福祉協議会 対象者：自治会役員、民生委員等 《玉縄地区》 日程：5月13日、10月22日（講演会） 参加者：15名+50名 《深沢地区》 日程：6月20日、9月2日 対象者：自治会役員、民生委員等 参加者：9名+20名 ②居宅介護支援事業所（アシスタンス） 日程：10月～3月（計6回） 対象：介護予防運動指導員養成講座等受講者 参加者：計47名	○	①地域住民の中に、自殺に対する誤解や偏見が根強くあるが、講座を受講する中で誤解や偏見が減少する傾向が伺えた。自殺に対する地域の理解を深めるためには地道に講座を継続していく必要がある。 ②参加人数や受講者の特性にばらつきあり。実際に現場で高齢者と接する機会のある者に受講してもらう方が効果的である。市主催の公開講座とし広く周知していく。	①生活支援コーディネーターと連携し、他の地区社会福祉協議会（鎌倉・大船・腰越）での開催を検討していく。 ②ゲートキーパー講座（高齢者版）主催（市）、協力（居宅介護支援事業所アシスタンス） 対象：一般市民（介護予防運動指導員養成講座受講者含む） 内容：年5回実施（グループワーク含む）
	ステップアップ講座や交流会等により、ゲートキーパーとしての意識の強化と横のつながりづくりに努めます	42	健康福祉部	市民健康課						
2-3. ゲートキーパー講座の整備	ゲートキーパー講座の内容の見直し、ステップアップ講座等の体系化を進めます	42	健康福祉部	市民健康課		GK基礎講座教材の見直しと体系化 （GK基礎講座の統一教材作成各課の事業と連動したGK講座の体系化） 市民団体向けの内容整備も行っていく	こどもから高齢者、職域、地域等、受講者のニーズに合わせた内容で実施。基礎の講座とステップアップ講座を分けて実施。	△	対象者の課題やニーズに合わせて基礎の講座（一般市民向け）とステップアップ講座（専門職向け）を実施したが、体系化するまでには至らなかった。	継続

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
基本施策3 こころの健康づくりの推進										
3-1. こころの健康づくりに関する普及啓発	こころの健康づくりに関する普及啓発や情報提供を行います	44	健康福祉部	市民健康課	再	年2回以上他課事業との連携 9月、3月の健康講座と連携したゲートキーパー講座を企画 11月にいきるを支える実行委員会講演会を開催	①いきるを支える鎌倉・逗子・葉山実行委員会において、自殺対策講演会を令和4年10月にハイブリッド開催。会場30名・オンライン13名 ②ゲートキーパー講座 ・市民向け33名 ・専門職向け18名 ・地域・関係機関から依頼延べ373人（13回）	○	参加者アンケートから、ゲートキーパーとしての対応だけでなく、自分自身に目を向けることの大切さも伝えることができたようだった。	継続
	子どものこころの健康づくりに関する啓発や、育児不安の軽減など子育て世代のこころの健康づくりを支援します	44	こどもみらい部	こども相談課		相談事業において、保護者や子どもの不安が軽減されるよう話を傾聴するとともに、関係機関等と連携して課題解決に向けて対応を図る。	相談者の話を傾聴する中で、必要に応じ、医療機関をはじめ関係機関、関係各部署と連携し課題解決に向けた支援を行った。	○	他機関等と連携し対応することができた。	継続
	子どものこころの健康づくりに関する啓発や、育児不安の軽減など子育て世代のこころの健康づくりを支援します	44	健康福祉部	市民健康課		母子保健事業とタイアップした普及啓発	健診・教室、家庭訪問、育児相談など、母子保健事業を通じて支援を実施した。	○	複雑化している子育て世代の相談に対して、丁寧な支援を行った。	継続
	子どものこころの健康づくりに関する啓発や、育児不安の軽減など子育て世代のこころの健康づくりを支援します	44	健康福祉部	市民健康課		母子保健事業として実施していた「いのちの教室」「ライフプラン講演会」を自殺対策に位置づけ実施へ（拡大）	1「いのちの教室」対象：市内在住、在学の児童生徒 教育機関と連携し、「命の誕生」や「自分を大切にすること」「性と生」など、自尊感情やこころの健康づくりについて講話を行う。市内小学校 5校（PTA対象を含む）478人、市内中学校9校（フリースクール1カ所含む）1,162人、市内私立高校1校180人で実施。延参加者数1,820人 2「ライフプラン講演会」 （1）令和4年11月29日（火） 市内中学校で実施（オンデマンド配信あり） 「～自分のこころに気づき、相手を大事にするために～」参加者153人 （2）令和5年2月20日（月） 「生き方を考える～人は経験から学び、経験しないことは他人ごと～」参加者数180人	○	いのちの教室の開催数は増加している。SOSの出し方・受け止め方講演会を継続して行い、地域全体での意識づくりを行う。教育部門と連携し、計画的に取り組んでいきたい。	継続
	ICT活用事業と連携し、「こころの健康チェック」の導入やこころの健康づくりに関する情報を発信します	44	健康福祉部	市民健康課			「健康チェックの導入」については、神奈川県において取り組まれている内容のため、市単独での開設を見送り、市ホームページからサイトへリンクできるようにしている。	○	引き続き周知を図っていく。	継続

[資料1] 令和4・5年度 鎌倉市自殺対策計画進捗管理シート

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
基本施策4 適切な精神保健医療福祉へつなぐ支援										
4 - 1. 精神疾患への理解の促進	精神疾患や希死念慮のある人への対応について理解を深めるための啓発や講演会を行います	46	健康福祉部	障害福祉課		市民健康課と協同で計画していく	継続して行った。	○		市民健康課と協同で計画していく
	精神疾患や希死念慮のある人への対応について理解を深めるための啓発や講演会を行います	46	健康福祉部	市民健康課	再	（ゲートキーパー講座や各種講演会等での啓発） 精神保健福祉担当部署と連携し継続	①いきるを支える鎌倉・逗子・葉山実行委員会「自殺対策講演会」会場30名・オンライン13名 ②ゲートキーパー講座 ・市民向け33名 ・専門職向け18名 ・地域・関係機関から依頼延べ373人（13回）	○	参加者アンケートから、ゲートキーパーとしての対応だけでなく、自分自身に目を向けることの大切さも伝えることができたようだった。	継続
4 - 2. 適切な医療の利用に関する啓発	精神疾患を有するハイリスク者への適正な医療勧奨や相談先の紹介を行います	46	健康福祉部	市民健康課		相談体制について検討する。	電話相談（随時）	○	常時、相談を受ける人員を確保することが困難	継続
	精神疾患や希死念慮が疑われる人が適正な医療へつながるよう支援します	46	健康福祉部	市民健康課		鎌倉市医師会における研修会の働きかけ 実現に向け検討中	未実施	△	鎌倉市医師会における研修会（こころのケアナース育成も含め）実施に至らなかった。	医療機関との連携について鎌倉市医師会等と協議する。
	医師会等の関係機関と協力し、（仮称）こころのケアナースの育成や活動を推進します	46	健康福祉部	市民健康課	再	相談業務に携わる人向けの専門的な視点でのゲートキーパー講座を実施予定。	ゲートキーパー講座（専門職向け） 演題：相談者の「いきる」を支えるために～司法書士の立場からみる自殺対策～ 日時：2月10日（金）19：00～ 講師：植松 育子氏 （うえまつ司法書士事務所） 対象：生活に関する相談を受ける者、行政・医療・福祉関係者等 参加者：18名（オンライン14名、来庁4名）	○	相談者を中心とした伴走型での支援が求められているが、それには関係者同士がつながりを持つことが重要である。ゲートキーパー養成講座を通して関係者がつながりをもてるよう、今後も継続して実施いきたい。	ゲートキーパー講座（専門職向け） 演題：「支援を必要とする親への寄り添い方のコツ」（仮） 日時：7月6日（木）15：30～17：00 講師：平島奈津子氏 （国際医療福祉大学三田病院精神科医） 対象：保育士、子育て支援センター相談員、学童支援員、主任児童委員、教育・子育て支援関係者など
4 - 3. 保健・医療・福祉の連携	医師会等の関係機関と協力し、かかりつけ医や精神科以外の医療機関への精神保健・福祉に関する研修会を開催します。また相談窓口一覧等の情報発信をともにを行います。	45	健康福祉部	市民健康課		救急医療機関にサポートリスト配架を依頼。 自殺未遂者支援について情報共有の場をつくる。	警防救急課の協力により、救急車にサポートリストを配架。必要に応じて本人や家族に配布。 湘南鎌倉総合病院救急救命センター長にサポートリストの配架を依頼。	△	サポートリスト配架への協力依頼に留まり。研修会の実施には至らなかった。	関係機関と未遂者支援について協議する場を設定する。

〔資料1〕 令和4・5年度 鎌倉市自殺対策計画進捗管理シート

[illegible]

[資料1] 令和4・5年度 鎌倉市自殺対策計画進捗管理シート

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
基本施策6 いきることの促進要因への支援										
6 - 1. 生きがい支援	高齢者や障害者等の生きがいづくりや、外出、仲間づくりの機会を提供し、いきいきとした生活を支援します	51	健康福祉部	高齢者いきいき課		老人クラブへの支援と連携（通年） いきいきサークル事業の実施（通年）	新型コロナウイルス感染対策を講じて老人クラブやいきいきサークル事業の活動を通じて通年にわたり高齢者の生きがいづくりや外出、仲間づくりの機会を設けて、いきいきとした生活が過ごせるように必要な支援協力を行った。	○	感染対策を図りつつ、通年で生きがいづくり等の機会を設ける必要な支援ができた。	老人クラブへの支援と連携（通年） いきいきサークル事業の実施（上半期）
		51	健康福祉部	障害福祉課		二千人雇用センターによる就労支援や地域活動支援センターによる日中活動支援、タクシー利用助成券による社会参加支援などを行う	継続して行った。	○		継続
6 - 2. 居場所づくり	居場所となりうる場を提供するとともに、居場所づくりの支援を行います	51	健康福祉部	高齢者いきいき課		老人福祉センターの運営（通年）	指定管理により老人福祉センターの運営を行った。	○	予定通り実施できた。	老人福祉センターの運営（通年）
		51	健康福祉部	福祉総務課		玉縄交流センター内会議室を居場所づくりの場として提供	玉縄交流センター内の会議室を提供する制度はあるが実績はなかった。	△	制度の周知などに課題がある	重層的支援体制整備事業を通じ、既存の居場所が多様な市民の活用を想定したインクルーシブな場となるよう、分野横断による情報提供やコーディネートのある方を検討
		51	こどもみらい部	こども相談課		子育て支援センターを運営するとともに、子育てサロンなどの子どもや保護者の居場所に繋がる活動や場所についての周知を図る。	市ホームページ、LINE等を通じ、子育て支援センターについて周知を図った。また、(仮)腰越子育て支援センター開設に向けて準備を進めた。	○	子育て支援センターは多くの方に利用いただけた。	継続
		51	こどもみらい部	青少年課		今後も新たな青少年の居場所づくりを検討していきます。	自習スペース「わかたま」スペース（鎌倉・玉縄・大船・腰越地区）の運用を引き続き行っています。	○		新たな青少年の居場所づくりの計画として、フリースクールの補助金の新設や、放課後かまくらっ子おなりの夜間開放を検討しています。
		51	健康福祉部	市民健康課			①ゲートキーパー講座（地区社会福祉協議会） 参加者：延べ94名 ②ゲートキーパー講座（青少年課） 参加者：139名	○	①地区社会福祉協議会主催の居場所づくりの活動が自殺対策に繋がっていることを再確認し、その取組みを支持した。 ②学童はこども達の居場所の一つである。こどものサインを見逃さず、見守る役割について再認識した。	①他の地区社会福祉協議会（鎌倉・大船・腰越）での開催を検討していく。 ②子育て支援関係者にゲートキーパー養成講座（7月6日）の参加勧奨。
		51	健康福祉部	市民健康課 (介護保険課兼務業務)						地域で自主的に活動する高齢者の団体に「地域介護予防活動支援補助金」を交付するとともに、要望のある団体には、健康づくりに関する講話等を行っている。居場所づくりの一つとして、令和5年度からは自殺対策の視点も取り入れ実施へ。
6 - 3. 多様性への理解促進	一人ひとりの人権の尊重や多様な生き方への理解を深めるための啓発を行います	51	健康福祉部	障害福祉課		障害や難病に対する市民の理解を促進させる講演会の開催、障害理解に対する冊子の配布	新型コロナウイルス感染症拡大の観点から中止。障害理解に対する冊子の配布は継続。	△		継続
		51	教育文化財部	教育センター		人権研修会の開催 年1回	人権研修会を開催をした。	○	小・中学校他32名の参加があり、満足度アンケートにおいて4段階中3.3の評価を受けたため。	継続
		51	健康福祉部	市民健康課	再	ゲートキーパー講座等を通じ、多様性の理解への啓発	ゲートキーパー講座 ・市民向け33名 ・専門職向け18名 ・地域・関係機関から依頼延べ373人（13回）	○	ゲートキーパー講座で講話	継続
		51	共生共創部	地域共生課		共生社会に係る啓発事業を通じ、一人ひとりの人権の尊重や多様な生き方への理解・啓発を図る。	共生社会に係る啓発事業を通じ、一人ひとりの人権の尊重や多様な生き方への理解・啓発を図った。	○	鎌倉市共生のまちづくり連続講座を開催。のべ71名参加。	共生社会に係る啓発事業を通じ、一人ひとりの人権の尊重や多様な生き方への理解・啓発を図る。

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
6 - 3. 多様性への理解促進	一人ひとりが孤立することのない地域づくりに向け、自尊感情や相互関係の育成、多様性を受け入れる社会の実現に向けた啓発を行います	51	共生共創部	地域共生課		共生社会に係る啓発事業を通じ、一人ひとりが孤立することのない地域づくりに向け、自尊感情や相互関係の育成、多様性を受け入れる社会の実現に向けた啓発を図る。	共生社会に係る啓発事業を通じ、一人ひとりが孤立することのない地域づくりに向け、自尊感情や相互関係の育成、多様性を受け入れる社会の実現に向けた啓発を図った。	○	鎌倉市共生のまちづくり連続講座を開催。のべ71名参加。	共生社会に係る啓発事業を通じ、一人ひとりが孤立することのない地域づくりに向け、自尊感情や相互関係の育成、多様性を受け入れる社会の実現に向けた啓発を図る。
		51	健康福祉部	市民健康課		各種保健事業において啓発	1 「いのちの教室」 対象：市内在住、在学の児童生徒 教育機関と連携し、「命の誕生」や「自分を大切にすること」「性と生」など、自尊感情やこころの健康づくりについて講話を行う。 市内小学校 5校（PTA対象を含む）478人、市内中学校9校（フリースクール1カ所含む）1,162人、市内私立高校1校180人で実施。延参加者数1,820人 2 「ライフプラン講演会」 (1)令和4年11月29日（火） 市内中学校で実施（オンデマンド配信あり） 「～自分のこころに気づき、相手を大事にするために～」 参加者153人 (2)令和5年2月20日（月） 「生き方を考える～人は経験から学び、経験しないことは他人ごと～」 参加者数180人	○	いのちの教室の開催数は増加している。SOSの出し方・受け止め方講演会を継続して行い、地域全体での意識づくりを行う。教育部門と連携し、計画的に取り組んでいきたい。	継続
		51	健康福祉部	障害福祉課	再	障害理解のための講演会の開催、障害理解に対する冊子の配布、障害者支援協議会による地域との交流事業、障害者週間にあわせてふれあいフェスティバルを開催する	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止。	×		継続
		51	教育文化財部	教育センター		教職員向けのインクルーシブ・色弱・不登校等、多様性の理解をテーマとした研修会の開催	教職員向けの多様性の理解をテーマとした研修会を開催した。	○	中・学校他3名の参加があり37名、満足度アンケートにおいて4段階中3.5の評価を受けたため。	継続
6 - 4. 地域共生の実現に向けた取組	ともに生きる社会の実現に向けた意識の啓発を行います	51	こどもみらい部	こども相談課		児童相談所等と連携し、虐待防止についての普及啓発活動や里親や特別縁組制度等、多様な家庭形態があることの周知、啓発などを行う。	窓口に各種チラシを配架するとともに、児童虐待や里親制度について、広報やLINEでも周知啓発を図った。	○	広報、LINEの他、ロービーでのパネル展示でも周知啓発ができた。	継続
		51	教育文化財部	教育センター		学習資料や刊行物等による意識の啓発	学習資料や刊行物等による意識の啓発を行った。	○	学習資料や刊行物等による意識の啓発に努めることができたため。	継続
		51	教育文化財部	教育指導課		学校訪問等での教職員への意識啓発、インクルーシブ教育の推進を行います。	学校訪問等での教職員への意識啓発、インクルーシブ教育の推進を行った。	○	予定通り事業を行うことができた。	学校訪問等での教職員への意識啓発、インクルーシブ教育の推進を行います。
		51	健康福祉部	高齢者いきいき課		多世代交流事業の開催（随時）	指定管理により老人福祉センターで開催した。	△	新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となった事業があった。	多世代交流事業の開催（随時）
		51	健康福祉部	福祉総務課		地域共生社会の実現を目指すため、地域福祉計画を推進する	地域福祉計画推進委員会を開催し、計画の進行管理を行った。	○		地域福祉計画推進委員会を開催し、計画の進行管理を行う
		51	健康福祉部	障害福祉課	再	障害理解のための講演会の開催、障害理解に対する冊子の配布、障害者支援協議会による地域との交流事業、障害者週間にあわせてふれあいフェスティバルを開催する	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止。	×		継続
		51	市民防災部	商工課		湘南・横浜若者サポートステーションと共にひきこもり本人・家族向けにセミナー及び個別相談会を5月、9月、1月に実施する	年3回実施。 参加者 のべ41人	○		継続
		51	市民防災部	地域のつながり課		自治会・町内会等への情報発信	自殺対策に関する情報発信はなかったが、関係課との体制づくりに取り組んだ。	△	情報発信がなかった。	継続
		51	消防本部	警防救急課		救急隊員を研修会等に出席させる。資料等もらい配布する。	警備人員の関係から出席できず。	△	警備上出席はできなかったが資料で共有を図った	救急隊員を研修会等に出席させる。資料等もらい配布する。
		51	総務部	納税課		対象者に対し、困りごとがあった場合適切な相談窓口案内ができますよう意識します。	必要と思われる相談者へ、相談窓口を案内し、催告書にリーフレットを同封し周知した。	○	リーフレットの活用などにより相談窓口を案内した。	対象者に対し、困りごとがあった場合適切な相談窓口案内ができますよう意識します。

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
6 - 4. 地域共生の実現に向けた取組	ともに生きる社会の実現に向けた意識の啓発を行います	51	健康福祉部	生活福祉課		必要に応じて、民生委員児童委員に対し情報提供を行う	民生委員児童委員に対し、難民や外国籍の方に関する講座や地域共生課の「共生のまちづくり講座」を案内した。	○	民生委員児童委員約220名に案内した。	継続
		51	共生共創部	地域共生課		共生社会に係る啓発事業を通じ、ともに生きる社会の実現に向けた意識の啓発を図る。	共生社会に係る啓発事業を通じ、ともに生きる社会の実現に向けた意識の啓発を図った。	○	鎌倉市共生のまちづくり連続講座を開催。のべ71名参加。	共生社会に係る啓発事業を通じ、ともに生きる社会の実現に向けた意識の啓発を図る。
6 - 5. 子育て支援	子育てに関する不安の解消と交流の場づくりにより、子育てを支援します	51	こどもみらい部	こども相談課		各種子育て講座を開催するとともに、子育て支援センターにおける各種事業の中で、子育ての不安解消に繋がる多様な事業を展開する。	コロナ感染状況をみながら、一部子育て講座を再開。また、子育て支援センターでは相談者の悩みに傾聴し、不安解消に努めた。子育て支援センター 利用者数 延べ26,761人 12,492組 子育て支援センターへの相談件数 延べ6,715件	△	子育て支援センターにおける各種イベント、子育て支援講座については、コロナ禍の状況等をふまえ、順次拡大していく。	継続
		51	健康福祉部	市民健康課	再	母子保健事業を中心に、子育て支援を展開	健診・教室、家庭訪問、育児相談など、母子保健事業を通じて支援を実施した。	○	複雑化している子育て世代の相談に対して、丁寧に支援を行った。	継続
		51	こどもみらい部	青少年課		所管外 要対協への子どもの家支援員の情報提供等、配慮の必要な子どもの情報提供は引き続き行っています。				所管外につき、計画はありません。

[資料1] 令和4・5年度 鎌倉市自殺対策計画進捗管理シート

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
基本施策7 個人及び地域全体の自殺リスク低下に向けた支援										
7-1. 各種相談窓口の周知	市民からの相談に対し、関係各課と連携し、適切な相談窓口や専門家による相談につなげます	53	こどもみらい部	こども相談課		市民からの相談に対し、関係各課や児童相談所、保健福祉事務所など関係機関と連携し、相談者の不安や課題の解消を図る。	相談者の話を傾聴する中で、必要に応じ、医療機関をはじめ関係機関、関係部署と連携し課題解決に向けた支援を行った。	○	他機関等と連携し支援することができた。	継続
		53	健康福祉部	高齢者いきいき課		市民からの相談に対し、関係各課と連携し、適切な相談窓口や専門家による相談につなげます。	高齢者の様々な相談に対し、地域包括支援センターに委託・連携しながら相談を受けるとともに、権利擁護等については成年後見センターへも繋ぎ、弁護士等による専門相談につなげた。	○	予定通り実施できた。	市民からの相談に対し、関係各課と連携し、適切な相談窓口や専門家による相談につなげる。
		53	健康福祉部	障害福祉課		市民からの相談に対し、関係各課と連携し、適切な相談窓口や専門家による相談につなげる	継続して行った。	○		継続
		53	市民防災部	商工課		関係課と連携し、鎌倉市ひきこもり等に関する連絡会を開くと共に、広報紙やホームページ等による周知を行う	ひきこもり連絡会に参加。 また、広報やホームページ、ちらしによる周知に努めた。	○		継続
		53	総務部	納税課		市民からの相談に対し、関係各課と連携し、適切な相談窓口や専門家による相談につなげます。	必要と思われる相談者へ、相談窓口を案内し、催告書にリーフレットを同封し周知した。	○	リーフレットの活用などにより相談窓口を案内した。	市民からの相談に対し、関係各課と連携し、適切な相談窓口や専門家による相談につなげます。
		53	健康福祉部	市民健康課	再	ゲートキーパー基礎講座において、相談窓口一覧を配布し、活用方法を周知	職員向けGK講座において、相談窓口一覧を配布、活用方法の周知 相談を受ける機会の多い、庁内検討会各課からの浸透を図っていく。	○		継続
		53	健康福祉部	生活福祉課		市民からの相談に対し、関係各課と連携し、適切な相談窓口や専門家による相談につなげます	生活に困っているという大卒の相談があった際には、困りごとを1つ1つ切り取って、他課と連携しながら課題の解決に取り組むことができた。	○		継続
7-2. 様々なリスクに対する相談・支援機能の充実	生活上の様々なリスクに対し、対象者のニーズを把握し、関係機関と連携して支援をします	53	共生共創部	地域共生課		・くらしと福祉の相談窓口において、市民からの相談に対し、関係各課及び関係機関と連携し、適切な相談窓口や専門家による相談につなげる。 また、くらしと福祉の相談窓口の隣に地域包括支援センター鎌倉市社会福祉協議会を設置し、より効果的な相談支援を行う。 ・専門家による法律等の相談事業を継続して行う。 ・女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供、関係機関等の連携を図る。	・くらしと福祉の相談窓口において、市民からの相談に対し、関係各課及び関係機関と連携し、適切な相談窓口や専門家による相談につなげた。 また、くらしと福祉の相談窓口の隣に地域包括支援センター鎌倉市社会福祉協議会を設置し、より効果的な相談支援を行った。 ・専門家による法律等の相談事業を継続して行った。 ・女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供、関係機関等の連携を図った。	○	・相談者の身の安全を最優先に、相談者の意思を尊重し対応を行った。	・くらしと福祉の相談窓口において、市民からの相談に対し、関係各課及び関係機関と連携し、適切な相談窓口や専門家による相談につなげる。 また、くらしと福祉の相談窓口の隣に地域包括支援センター鎌倉市社会福祉協議会を設置し、より効果的な相談支援を行う。 ・専門家による法律等の相談事業を継続して行う。 ・女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供、関係機関等の連携を図る。
		53	こどもみらい部	こども相談課		市民からの相談に対し、関係各課や児童相談所、保健福祉事務所など関係機関と連携し、相談者の不安や課題の解消を図る。	相談者の話を傾聴する中で、必要に応じ、医療機関、関係各部署と連携し課題解決に向けた支援を行った。	○	他機関等と連携し支援することができた。	継続
		53	健康福祉部	高齢者いきいき課		生活上の様々なリスクに対し、対象者のニーズを把握し、関係機関と連携して支援します。	生活上の様々なリスクに対し、対象者のニーズを把握し、地域包括支援センターや医療機関、保健所等関係機関と連携して支援した。	○	予定通り実施できた。	生活上の様々なリスクに対し、対象者のニーズを把握し、関係機関と連携して支援する。
		53	健康福祉部	障害福祉課		生活上の様々なリスクに対し、対象者のニーズを把握し、関係機関と連携して支援する	継続して行った。	○		継続
		53	健康福祉部	市民健康課		ワーキンググループメンバーを通じ、各課研修としての実施を展開していく	事例検討会「希死念慮のあるケースへの支援について」 令和4年10月6日（木）13：30ワーキンググループ構成員14名	○	事例検討会を通して関係各課との連携が図ることができた。	継続
		53	健康福祉部	市民健康課	再	【いきるを支える相談会】 対象：「鎌倉スマイルフードプロジェクト」（食糧支援事業）の来所者で、アンケート「体調に不安・気持ちがふさぐ」に該当し相談を希望する者 相談員：司法書士、臨床宗教師、保健師 ①12月17日（土）相談2件 ②1月21日（土）相談1件 ③3月18日（土）相談1件		○	傾聴し課題を整理することで必要な支援につなげることができた。 食糧支援事業（生活福祉課主催）と併せて実施したことで、普段、相談につながりにくい人（sos発信する力が弱い人）にアプローチできた。また相談会後も継続的に支援する者もあり、関係機関と連携が不可欠。	いきるを支える相談会 各行政区（5箇所）で実施予定
		53	市民防災部	商工課		就労支援事業の所管課との連絡会議を開催すると共に、広報誌やホームページ等による周知を行う	就労支援の所管課と情報共有をするともに、広報紙やホームページ等による周知に努めた。 就職支援相談は月1回の本庁での相談に加え、支所での月1回の出張相談を実施。 相談件数 68件	○		相談事業を拡充 出張相談も含めて、月4回実施予定

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
		53	総務部	納税課		対象者に対し、困りごとがあった場合適切な相談窓口以案内できるよう意識します。	必要と思われる相談者へ、相談窓口を案内し、催告書にリーフレットを同封し周知した。	○	リーフレットの活用などにより相談窓口を案内した。	対象者に対し、困りごとがあった場合適切な相談窓口以案内できるよう意識します。
		53	健康福祉部	生活福祉課		生活上の様々なリスクに対し、対象者のニーズを把握し、関係機関と連携して支援をします	生活困窮者世帯向けに実施した食料配布会では来場した市民にアンケートを記入してもらうことでニーズの把握に取り組み、個別具体的なケースについては、関係機関と連携した支援を行った。また、配布会会場で市民健康課保健師等による「こころと身体の相談」を実施し、様々な課題を抱える市民を把握し、必要な支援につなげた。	○	食料配布会でのアンケートを基に実施回数等を検討し、より多くの方が利用できるように取り組むことができた。	継続
		53	共生共創部	地域共生課		・くらしと福祉の相談窓口において困りごとを包括的に受け止め、関係課及び関係機関と連携しながら相談支援を行う。 ・女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供、関係機関等との連携を図る。	・くらしと福祉の相談窓口において困りごとを包括的に受け止め、関係課及び関係機関と連携しながら相談支援を行った。 ・女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供、関係機関等との連携を図った。	○	・相談者の身の安全を最優先に、相談者の意思を尊重し対応を行った。	・くらしと福祉の相談窓口において困りごとを包括的に受け止め、関係課及び関係機関と連携しながら相談支援を行う。 ・女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供、関係機関等との連携を図る。
7 - 3. 虐待予防	虐待やセルフネグレクトの予防や問題の解決に向け、関連機関が連携して対応します	53	こどもみらい部	こども相談課		関係各課や児童相談所、保健福祉事務所など関係機関と連携し、虐待防止に向けた普及啓発活動を行うとともに虐待通告、相談に対応する。	こどもと家庭の相談室 相談件数 332件 うち虐待件数82件(身体27件、ネグ9件、心理46件、性0件)	○	関連機関と連携して実施できた。	継続
		53	健康福祉部	高齢者いきいき課		虐待やセルフネグレクトの予防や問題の解決に向け、関連機関と連携して対応します。	虐待やセルフネグレクトの予防や問題の解決に向け、地域包括支援センター、警察、消防、民生委員、医療機関及びケアマネジャーと連携して対応した。	○	予定通り実施できた。	虐待やセルフネグレクトの予防や問題の解決に向け、関連機関と連携して対応する。
		53	健康福祉部	市民健康課		（関連機関への計画の周知）	事例検討会「希死念慮のあるケースへの支援について」 令和4年10月6日（木）13：30ワーキンググループ構成員14名 県職員（医師2名・相談員1名）	○	事例検討会を通して関係各課との連携を図ることができた。	継続
		53	健康福祉部	障害福祉課		虐待やセルフネグレクトの予防や問題の解決に向け、関連機関と連携して対応する	継続して行った。	○		継続
		53	健康福祉部	生活福祉課		虐待やセルフネグレクトの予防や問題の解決に向け、関連機関が連携して対応します	具体的な事象が発生した際には、庁内の関係機関を始め、インクル相談室、民生委員などと連携しながら対応を行った。	○	困窮相談の中で虐待等の可能性を感じたときは、子ども相談課らと連携し、慎重に対応することができた。	継続
		53	共生共創部	地域共生課		女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供、関係機関等の連携を図る。	・女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供、関係機関等の連携を図った。	○	・相談者の身の安全を最優先に、相談者の意思を尊重し対応を行った。	女性相談（電話・面談）における適切な助言や情報提供、関係機関等の連携を図る。
7 - 4. 情報提供	自殺予防に関連する鎌倉市の相談窓口のほか、国や県のSNS相談窓口の情報を提供します	53	健康福祉部	市民健康課	再	「かまくらサポートリスト」「だれでも誰かのサポーター」の効果的な配布に努める	①「かまくらサポートリスト」を市内スーパー（3箇所）、郵便局等に配架。ダウンロード用のちらしを作成。 ②ホームページからスムーズに相談先につながるよう改善中。わかりやすく伝えるための画像素材の作成を委託し、完成した。	○	おおむね実施できた	継続

[資料1] 令和4・5年度 鎌倉市自殺対策計画進捗管理シート

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
基本施策8 地域におけるネットワークの強化による地域全体の自殺対策のための基盤づくり										
8-1. 自殺対策推進体制の整備	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会による本計画の進行管理を行うとともに、庁内ワーキンググループを設置し、鎌倉市の自殺実態に関する検証と対策の推進に努めます	56	こどもみらい部	こども相談課		鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会への出席などを通じて、自殺対策における課題の共有をするとともに、今後の対策推進についての協議を行う。				
		56	こどもみらい部	青少年課		必要に応じて、検討会等に参加します。	令和4年度は検討会が開催されませんでした。	△		必要に応じて、検討会等に参加します。
		56	教育文化財部	教育センター		スクールソーシャルワーカーを中心とした児童相談所や関係機関等との連携	スクールソーシャルワーカーを中心とした児童相談所や関係機関等との連携した。	○	スクールソーシャルワーカーを中心とした児童相談所や関係機関等との連携することができたため。	継続
		56	教育文化財部	教育指導課		鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加します。	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加した。	○	予定通り事業を行うことができた。	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加します。
		56	消防本部	警防救急課		鎌倉市自殺対策計画推進庁内検討会への出席	会議に出席した。	○	積極的に参加した	鎌倉市自殺対策計画推進庁内検討会への出席
		56	市民防災部	商工課		鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加する	会議に参加。	○		継続
		56	市民防災部	地域のつながり課		鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加する	庁内検討会に出席した。	○		継続
		56	総務部	納税課		鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加します。	鎌倉市自殺対策計画推進庁内検討会に参加した。	○	鎌倉市自殺対策計画推進庁内検討会に参加した。	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加します。
		56	健康福祉部	市民健康課		鎌倉市自殺対策計画推進委員会の開催 年3回（対面での会議開催又はオンライン会議等を検討し実施）	自殺対策計画推進委員会：2回 庁内検討会：2回 庁内ワーキンググループ：未実施	△	庁内ワーキンググループは実施できなかった。	庁内ワーキンググループでの事例検討会
		56	共生共創部	地域共生課		鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加し、相談事業における自殺対策の推進を検討を進める。	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加し、相談事業における自殺対策の推進の検討を行った。	○	市民健康課で行った自殺対応の研修会へ参加し、関係課との連携の強化を図った。	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加し、相談事業における自殺対策の推進を検討を進める。
		56	健康福祉部	高齢者いきいき課		庁内検討会にて、本市の自殺対策の推進に努めます。	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加した。	○	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会へ参加した。	引き続き鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加し、自殺対策の推進に努めていく。
		56	健康福祉部	福祉総務課		鎌倉市社会福祉協議会への補助を通じた、福祉活動団体への支援	鎌倉市社会福祉協議会への補助を行い、福祉活動団体への支援を行った。	○		福祉活動団体への支援を行う鎌倉市社会福祉協議会への補助及び取組把握等を通じ、庁内ワーキンググループにおける検証と対策の推進に寄与する
		56	健康福祉部	生活福祉課		鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加します。	課長が鎌倉市自殺対策計画推進委員会のメンバーとして、担当者が自殺対策計画推進庁内検討会ワーキンググループに参加し、自殺対策のための基盤づくりについて検討した。	○		継続
		56	健康福祉部	障害福祉課		随時協力を行う	継続して行った。	○		継続
	庁内外の関係機関による、顔の見える関係づくりと問題の共通理解を図り、連携していきます	56	教育文化財部	教育センター		鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加する	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加した。	○	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加し、情報共有を行うことができたため。	継続
		56	健康福祉部	高齢者いきいき課		庁内検討会にて、本市の自殺対策の推進に努めます。	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加した。	○	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会へ参加した。	引き続き鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加し、自殺対策の推進に努めていく。
		56	健康福祉部	福祉総務課		庁内連携組織への参画	関係組織へ参画し、計画の推進に努めた。	○		関係組織へ参画し、計画の推進に努める
		56	健康福祉部	市民健康課		庁内検討会、庁内ワーキンググループ等を中心に連携	庁内検討会3回、庁内ワーキンググループ1回実施	○	自殺対策計画改定に向け、各課における役割を再確認した。庁内ワーキンググループでは事例検討会を通して関係各課との連携が	継続
		56	健康福祉部	市民健康課	再	庁内ワーキンググループでの事例検討会	事例検討会「希死念慮のあるケースへの支援について」令和4年10月6日（木）13：30ワーキンググループ構成員14名 県職員（医師2名・相談員1名）	○	事例検討会を通して関係各課との連携が図ることができた。	継続
		56	健康福祉部	障害福祉課		随時協力を行う	継続して行った。	○		継続

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
8 - 1. 自殺対策推進体制の整備	庁内外の関係機関による、顔の見える関係づくりと問題の共通理解を図り、連携していきます	56	健康福祉部	生活福祉課		地域の居場所において、相談が必要な人とつながる仕組みを検討します	ひきこもり支援事業や生活困窮者自立支援事業において居場所を設置した。また、ひきこもりに関わる事業者や支援機関、市が集まり、意見交換を行った。	○	ひきこもりの居場所は11月より、就労準備支援事業における居場所は4月より、週1回実施した。関係機関との意見交換は2回行った。	継続
		56	消防本部	警防救急課		鎌倉市自殺対策計画推進庁内検討会への出席	会議に出席した。	○	積極的に参加した	鎌倉市自殺対策計画推進庁内検討会への出席
8 - 2. 医療・福祉・企業との連携	地域の関係機関と本計画の目的を共有し、連携体制の構築や自殺対策の推進のため、それぞれができることを検討します	56	健康福祉部	市民健康課		継続				
8 - 3. 地域の居場所との連携	地域の居場所において、相談が必要な人とつながる仕組みを検討します	56	健康福祉部	市民健康課	再	継続	【いきるを支える相談会】 対象：「鎌倉スマイルフードプロジェクト」（食糧支援事業）の来所者で、アンケート「体調に不安・気持ちがあふさぐ」に該当し相談を希望する者 相談員：司法書士、臨床宗教師、保健師 ①12月17日（土）相談2件 ②1月21日（土）相談1件 ③3月18日（土）相談1件	○	傾聴し課題を整理することで必要な支援につなげることができた。食糧支援事業（生活福祉課主催）と併せて実施したことで、普段、相談につながりにくい人（sos発信する力が弱い人）にアプローチできた。また相談会後も継続的に支援する者もあり、関係機関と連携が不可欠。	いきるを支える相談会 各行政区（5箇所）で実施予定
		56	健康福祉部	福祉総務課		地域の居場所において、相談が必要な人とつながる取組関係機関と連携しながら検討する。				重層的支援体制整備事業を通じ、地域の居場所において、支援関係機関等が有機的に連携できるよう仕組みを検討する
		56	共生共創部	地域共生課		地域の居場所において、相談が必要な人とつながる取組を関係機関と連携しながら検討する。	地域の居場所において、相談が必要な人とつながる取組を重層的支援体制整備事業において分野横断的に検討した。	○	重層的支援体制整備事業において、事業に係る庁内連携会議等を通じ関係する所管課と情報共有・検討を行い、連携を進めた。	地域の居場所において、相談が必要な人とつながる取組関係機関と連携しながら検討する。
8 - 4. 地域における事後対応の検討	自死遺族や自殺未遂者の支援について、地域で支援する団体等の情報を収集し、連携した支援のあり方を検討します。	56	こどもみらい部	こども相談課		事後対応の検討をする場の開催	事後対応を検討する会の開催には至っていない。	×	要保護児童、要支援児童が関わる場合には、支援チーム会議の位置づけで検討する。	継続
		56	こどもみらい部	青少年課		必要に応じて、検討会等に参加します。	令和4年度は検討会が開催されませんでした。	△		必要に応じて、検討会等に参加します。
		56	教育文化財部	教育センター		スクールソーシャルワーカーの学校派遣とケース会議参加	スクールソーシャルワーカーの学校派遣とケース会議に参加した。	○	スクールソーシャルワーカーの学校派遣とケース会議に参加することで、適切な支援や情報共有に努めることができたため。	継続
		56	教育文化財部	教育指導課		文部科学省発行リーフレット等の周知及び事例研究を行い、必要に応じて検討会等に参加します。	文部科学省発行リーフレット等の周知及び事例研究を行い、必要に応じて検討会等に参加した。	○	予定通り事業を行うことができた。	文部科学省発行リーフレット等の周知及び事例研究を行い、必要に応じて検討会等に参加します。
		56	消防本部	警防救急課		検討会などの機会があれば出席する	ワーキンググループに参加した。	○	積極的に参加した	検討会などの機会があれば出席する
		56	健康福祉部	市民健康課	再	継続	ゲートキーパー講座（市民向け） 演題：「誰も自殺に追い込まれることのない”生き心地のよい鎌倉市”をめざして」 日時：令和5年1月28日（土） 講師：小牧奈津子氏（NPO法人ライフリンク）藤井美智子氏（NPO法人全国自死遺族総合支援センター） 参加者：33名	○	ちらしに「身近で大切な誰かを亡くされた方」と表現したことで不特定多数の者が参加。誰かを亡くした悲しみという共通点から自死遺族の話を身近に感じ、ゲートキーパーとしての役割を考えるきっかけにつながった。アンケートでは自殺への偏見が減少する傾向が見えた。今後、県と協力し、広域での開催を検討していきたい。	ゲートキーパー養成講座（市民向け） 内容：「自死遺族の体験談と基礎講座」 日時：令和6年1月開催予定 講師：自死遺族、精神科医等
		56	市民防災部	商工課		鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加する	会議に参加。	○		継続

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
8 - 4. 地域における事後対応の検討	自死遺族や自殺未遂者の支援について、地域で支援する団体等の情報を収集し、連携した支援のあり方を検討します。	56	市民防災部	地域のつながり課		必要に応じて検討会等に参加	検討会等への参加はなかった。	△	参加する検討会等がなかった。	継続
		56	総務部	納税課		必要に応じて、検討会等に参加します。	開催されなかったため、参加してない。	△	開催されなかったため。	必要に応じて、検討会等に参加します。
		56	共生共創部	地域共生課		必要に応じて検討会等に参加し、支援のあり方を検討、対応する。	会議開催がなかったため検討会への参加実績はないものの、検討会に参加する体制を構築し、必要に応じて対応する状況にある。	○	必要に応じて検討会等に参加し、支援のあり方を検討、対応する体制を整えているため。	必要に応じて検討会等に参加し、支援のあり方を検討、対応する。
		56	健康福祉部	福祉総務課		地域で支援する事業者等の情報収集、支援者間の連携のあり方の検討	鎌倉市社会福祉協議会との定期の打合せにおいて情報や課題を共有した。	○		重層的支援体制整備事業を通じ、自死遺族や自殺未遂者の支援について、個に応じた包括的な支援体制の構築を検討する
		56	健康福祉部	生活福祉課		必要に応じて、検討会等に参加します。	「ゲートキーパー養成講座（スキルアップ講座）」を受講した。	○	「ゲートキーパー養成講座（スキルアップ講座）」を2名が受講した。	継続
		56	健康福祉部	障害福祉課		随時協力をを行う	継続して行った。	○		継続

〔資料1〕 令和4・5年度 鎌倉市自殺対策計画進捗管理シート

計画における項目	実施内容	計画書 ページ	担当部署	担当課	再掲	令和4年度実施計画	令和4年度の実施状況	評価（○・△・×）	評価の理由・課題	令和5年度実施計画
基本施策9 子ども・若者のいきる力を育む										
9-1. 子ども・若者の健全育成への支援	乳幼児期からの自尊感情の育成に向け、地域における子育て支援を充実します	59	健康福祉部	市民健康課		教職員対象のGK講座を開催 （集合研修会としての実施予定はない）	SOSの受けとめ方講座（ステップアップ講座） 令和4年11月29日（火） 対象：教職員、保護者、その他関係者（青少年指導員、民生委員等） 参加者：58名（うち22名オンデマンド） 内容：子どものSOSのサインに気づくための知識とスキルを学ぶ	○	SOSの出し方・受け止め方講演会を継続して行い、地域全体での意識づくりを行う。 教育部門と連携し、計画的に取り組んでいきたい。	継続
	乳幼児期からの自尊感情の育成に向け、地域における子育て支援を充実します	59	こどもみらい部	こども相談課		相談事業や子育て講座などの各種事業を通じて家庭、地域における子育て支援に努める。	コロナ禍において、子育て支援講座は一部のみの開催、子育て支援センターは利用人数を制限しての開設であったが、こどもと家庭の相談室を含め相談事業等を通じ、子育て支援に努めた。	△	コロナ禍の状況を見て子育て支援講座を順次再開していく。	継続
	青少年指導員の活動を通し、子ども・若者の健全育成支援します	59	こどもみらい部	青少年課		青少年団体等の活動を通し、支援します。	令和4年度は、例年通り活動を行い、青少年協会、青少年指導員の活動を通じて子ども若者の健全育成を支援することができました。	○		青少年団体等の活動を通し、支援します。
	行政や教育機関が就学、学校生活、社会生活に関する問題解決への支援を行います	59	健康福祉部	生活福祉課		行政や教育機関が就学、学校生活、社会生活に関する問題解決への支援を行います	生活困窮世帯等の子どもを対象に、学習・生活支援を実施するとともに、学務課と連携し、制度案内のチラシを配布した。	○	就学援助や市税の通知に、制度案内のチラシを同封した。	継続
		59	教育文化財部	教育センター		鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加します	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加した。	○	鎌倉市自殺対策計画推進委員会や庁内検討会に参加し、情報共有を行うことができたため。	継続
		59	教育文化財部	教育指導課		就学相談、就学支援委員会の実施、指導主事の学校派遣による課題解決のための指導・支援を行います。	就学相談、就学支援委員会の実施、指導主事の学校派遣による課題解決のための指導・支援を行った。	○	予定通り事業を行うことができた。	就学相談、就学支援委員会の実施、指導主事の学校派遣による課題解決のための指導・支援を行います。
	小・中学校における教育の中で、「いのちの大切さ」、キャリア教育、こころの健康づくりなどの要素を意識し、いきる力の育成やSOSの出し方について考える機会を設けます	59	健康福祉部	市民健康課	再	母子保健事業を中心に、子育て支援を展開併せて、子育て支援グループ等へのゲートキーパー養成講座の実施を予定	①教育総務課より依頼 日程：7月27日（水） 対象：学校技能員、給食調理員 参加者：93名 ②青少年課より依頼 日程：11月11日（オンライン） 11月21日（オンライン+対面） 対象：学童支援員、コーディネーター 参加者：89名+50名	○	ゲートキーパー養成講座の基礎的な知識を伝える場として、また現場の意見を聴く場として有効であった。	・ワーキングメンバーを中心に各課及び関係機関でのゲートキーパー講座の開催を検討。 ・7月6日ゲートキーパー養成講座（子育て支援・教育関係機関）参加動員。
	小・中学校における教育の中で。「いのちの大切さ」、キャリア教育、こころの健康づくりなどの要素を意識し、いきる力の育成やSOSの出し方について考える機会を設けます	59	教育文化財部	教育指導課		担当者会等での情報提供及び研修を実施します。	担当者会等での情報提供及び研修を実施した。	○	予定通り事業を行うことができた。	担当者会等での情報提供及び研修を実施します。
	いじめの発生防止に関する活動や、相談員による相談を行います	59	教育文化財部	教育センター		必要に応じて、検討会等に参加します	必要に応じて、検討会等に参加した。	○	ケース会議等、必要な検討会の参加に努めたため。	継続
		59	教育文化財部	教育指導課		必要に応じて、検討会等に参加します	必要に応じて、検討会等に参加した。	○	ケース会議等、必要な検討会の参加に努めたため。	継続